

人と、地域と、未来をつなげる教育マガジン

# tokiwa

特集

学校間連携で生まれる、  
新しい学びの姿。

常磐の連携教育最前線レポート

つなぐ・ひろがる TOKIWA の輪

地域 × 常磐で育つ絆、育む未来。

vol.15

August 2010



## tokiwa CONTENTS

学校間連携で生まれる、  
新しい学びの姿。

3

常磐の連携教育最前線レポート

特集

つなぐ・ひろがる TOKIWA の輪

5

地域 × 常磐で育つ絆、育む未来。

7

学びのTOPIC

各学校組織の最新動向をピックアップレポート

教員パーソナルエッセイ

17

「もうひとつの探求」

教員の素顔の時間を紹介

表紙イラストについて

「星と船と人」

人類は古来から、星をつなげ星座をつくり、そのつながりから様々なストーリーを夜空いっぱいに描いてきました。8月の星座は、夏の大三角をはじめとした星座群、空高く輝く天の川などが楽しめます。今号の表紙は、そんな星空をモチーフに、「つながり」を表現。様々な個性の色を輝かせた星たちがひとつの船に乗り、果てしない大海原へ漕ぎ出します。常磐大学と地域に集う人びとが、手をつなぎあって星座をつくり、連携を紡ぎ出す。今号は、そのようなつながりのストーリーを中心にお届けしています。

Illustrator 平野 こうじ



常磐大学は平成21年度  
大学評価の結果、(財)大  
学基準協会の大学基準  
に適合していると認定さ  
れました。



常磐短期大学は平成20  
年度(財)短期大学基準  
協会による第三者評価  
の結果、適格と認定され  
ました。



August 2010 / vol.15

発行日 2010年8月  
発行 校舎法人常磐大学  
編集 広報課

〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1  
Tel.029-232-2511(代)  
<http://www.tokiwa.ac.jp/>

これからのからの  
100年に挑む、  
お伝えします。

2009年に開学100周年を迎えた学校法人常磐大学。2010年は101年目、第2の建学の年であり、これからのお教育の理想に挑むスタートの1年です。（法人広報誌もその改革の波に乗り、本号から大きくリニューアルをいたしました。）

これから一層、関係者の皆様、地域の皆様にご期待いただけます。常磐としてリスタートを切るために、改革の指針であるミッションとビジョンが策定されたことは前号でお伝えしたところですが、本号ではそこから生まれる学びの姿、連携教育の姿の最前線をお伝えします。





時に考えながら、時にのびのびと体を動かせる遊びを教えます。



幼児教育保育学科准教授 鈴木 康弘 幼児教育保育学科2年 小松 櫻子 幼児教育保育学科2年 関根 絵梨佳

徐々に発展していく遊びに、子どもたちも興味津々。

園庭では、鈴木康弘准教授と学生たちが様々な遊びを教えていました。2人向かい合わせで遊ぶ「なべなべそこぬけ」、タッチされたらバナナになる「バナナ鬼」など、初めての遊びに子どもたちは興味津々。学生たちは子どもたちの興味をそらさないよう、明るく

思考ながら、時にのびのびと体を動かせる遊びを教えます。

大きな声で見本を示します。「子どもは雰囲気に敏感なので、元気よく段取りよく『が大切』(小松櫻子さん)「全員をきちんと名前で呼ぶように心がけた」(関根絵梨佳さん)と学生たちは語ります。それそれが考えて、一人ひとりに注意を向け時には優しく話しかけ、皆がプログラムを楽しめるようにサポート。全体を見渡しながら個々の理解に心を配る児童

## 短大×幼稚園

## 子どもと一緒に遊び、返ってくる笑顔に学びがある。

幼稚教育のための課題研究  
「わくわくチャレンジ」レポート

常磐短期大学では、常磐大学幼稚園との連携による実践教育プログラム「わくわくチャレンジ」を実施しています。幼稚教育保育学科の学生が幼稚園におもむき、体を動かして遊ぶ楽しみを子どもたちに教えるというプログラム。学生にとっては、またとない実践の場となっている連携授業の一日をレポートします。

**幼稚園**  
「わくわくチャレンジ」の目的と教育的価値について、プログラムの担当教員である鈴木康弘准教授は次の3点を挙げています。  
第一に、幼稚園教諭を目指す学生が実践的に学べること。第二に、他者との関わりによる子ども成長が期待できること。第三に、遊びへの理解により保護者の方の養育力向上が図されること。プログラムを通じて調査した子どもの活動的な遊びへの欲求度を保護者の方へお知らせしたり、ニュースレターを通じてプログラムの様子を伝えるといった保護者の方との連携も進めています。

「学生には、自分の働きかけで子どもが喜び成長する姿を肌で感じ欲しい」と語る鈴木准教授。さらに高齢者の知恵を借りると

いつた地域連携による学びの広がりも期待されています。

教育の実践が行われていました。  
関係する全ての人たちが成長してこそその連携。

地域と考え合う講演会の輪／大学・短大発

## 「読売新聞連続市民講座」開講3年目。 地域の課題を、地域の方々とともに考える。

2010年5月22日から始まった、読売新聞東京本社水戸支局との連携による「連続市民講座」。好評を博し、異例の3年目を迎えた今年のテーマは「地域社会への包摂と教育の可能性」。9回にわたり講演・シンポジウムを行っています。各年代によりそれぞれ異なる個性をもった人々の居場所があり、互いに支えながら成長できる「たおやかな地域社会」をつくりあげるにはどうすればいいか。地域の方々とともに具体的な解決策を探る取り組みが始まっています。

### ○ 地域

講座を重ねるごとに、  
深まる地域理解と要望。

受講者の方々からお寄せいただいた感想も様々です。例えば、「元気な高齢者の食生活について具体的で分かりやすかった。参考にしたい(40代女性)」、「現在、住んでいる街で防犯委員をしておりますが、今日の講義を念頭に、少しでも防犯対策に役立てたい(70代男性)」など、問題解決の具体的なヒントを得たという声。また「新聞・テレビ等でよく耳にしているが理解できていなかったことが理解できた(60代女性)」、「将来、自分がどのような老後を迎えるのか考えさせられた(40代男性)」など、地域理解の新しい視点を得たといふ声が多く寄せられています。



### ○ 大学

#### 地域にかかわる中で 発見した課題を提言。

地域の乳幼児健診や発達支援グループに携わる中で、障がい児の発見や診断の遅れを地域の課題としてとらえています。就学前にきちんととした療育を行えば、子どもは変わります。私が担当した講演では、「『気になる子』と『発達障害』—幼児期の支援を考えるー」をテーマとしました。講演にあたっては、教科書を読めばわかるようなことではなく、できるかぎり私自身の経験からお話しするようにし、図表などもオリジナルのものを使用しました。講演後、多くの方からのご相談や、本学心理臨床センターへのご予約が寄せられました。今後は家族の機能不全などのテーマについても取り上げたいと考えています。

コミュニケーション学部  
ヒューマンサービス学科 教授 水口 進



2008年度の講演は  
書籍化されました。

### ○ 企業

#### 地域に根ざす 大学だからこそ、 高まる期待。

「連続市民講座」は、地域と大学を結び、幅広い年代層の「学ぶ意欲」に応えようと企画され、折しも常磐大学さんが100周年を迎えるにあたり協力ををお願いしました。地域に根ざし長い伝統を持つ常磐大学ならではの特色を活かし、初年度、次年度と、市民生活に関係の深いテーマで分かりやすく講演を行っていただき、受講者の方々の期待

は年々高まってきています。弊紙の読者からも「講座を受けたいがどうすればいいか」「講座の内容をもう少し詳しく載せて欲しい」といった反響をお寄せいただいています。地域の方々の知的好奇心を満たし、地域の抱える問題について関心を持っていたい。こうした点でも、「連続市民講座」のような連携は重要性を増してきています。

読売新聞水戸支局  
支局長 岩本洋二 様

新たな地域活性化  
コミュニティを  
目指して。

地域の課題に対し、常磐大学という教育機関はどう力になれるのか。これが「連続市民講座」のテーマです。受講者の皆様にアンケートを取り、それぞれの感じておられる課題を講演で取り上げるという試みを続けています。いずれは地域、教員、学生が連携して具

体的な解決策を探り、互いに成長し合えるコミュニティ創出の場としていきたい。読売新聞社さんとの連携を大切にしながら、地域活性化の新たな動きを生み出したいと考えています。

常磐大学 副学長 森山 哲美

地域に役立つ輪「産学官の協働による食育の取り組み」／大学発

## 県庁の食堂メニューには 私たちのアイディアがいっぱい！

常磐大学と茨城県保健福祉部保健予防課、茨城県庁生活協同組合の連携による茨城県庁食堂「ひばり」のメニュー開発プロジェクトが進行中です。人間科学部健康栄養学科の荒田玲子准教授と有志の学生14名がメンバーとして参加し、県産品と季節の食材をアイディアたっぷりに盛り込んだ月替わりメニューを提供しています。学生ならではの自由な発想と、おいしさや栄養価なども考慮されたヘルシーメニューに、評判も上々です。

私たちが考えました！



### 監修にあたった 教員から



産学官協働の食育の取り組みを通して、参加学生の成長に驚かされました。県の「食育推進計画」の一助を狙い、食事バランスガイドに従った献立作成を行い、喫食者にも満足される「味」を提供しなければならないという責任感が、学生たちを大きく成長させてくれました。私も、「実学」の効果を実感しました。

人間科学部 健康栄養学科 准教授 荒田玲子

### プロジェクトに 参加した学生の声

「パイタ焼き」という郷土料理を初めて知り、自分のメニュー考案に活かしました。茨城県にはまだ自分の知らない食材や特産品がある。地元に目を向ける意識がこのプロジェクトで生まれました。

人間科学部 健康栄養学科 2年 根本哲紀

私が考案したメニューをおいしく食べててくれる人がいる。その感動は、今まで食材や栄養価ばかり考えがちだった私に、相手を思い浮かべながら作るという視点を養ってくれました。

人間科学部 健康栄養学科 2年 永作莉央

1



まずはヒアリング  
どういう食材を使うかな  
ど、県の担当者から細かな要望をうかがいます。

2



アイディアを絞る  
食材の組み合わせや調理法をどうするか…おいしさだけでなく、管理栄養士を目指す学生らしく健康に配慮したメニューの案を出し合いま  
す。ディスカッションや発表を通して、県への提案に向けて改良を重ねていきます。

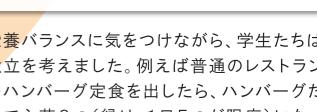
完成！



発案者：人間科学部健康栄養学科3年 川崎 彩香

『茨城の恵み定食（肉巻き）』2010年4月実施  
肉巻き（グリーンアスパラ・スナップエンドウ）  
十五穀米／わかめともやしのスープ／粉ふき芋

3



食事バランスガイド

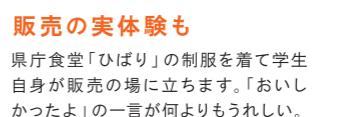
主食（黄色）、副菜（緑）、主菜（ピンク）をバ  
ランスよく取りましょう。特に、主食、副菜をたっぷり、主菜が多くならないように！

栄養バランスに気をつけながら、学生たちは  
献立を考えました。例えば普通のレストラン  
のハンバーグ定食を出したら、ハンバーグだけ  
で主菜3つ（緑は、1日5つが限度）になっ  
てしまい、バランスが悪くなります。

そしてプレゼン！

茨城県庁保健予防課の方も参加して  
試食。多くのアイディアメニュー  
の中から、今回は2案が採用され  
ました。

4



販売の実体験も

県庁食堂「ひばり」の制服を着て学生  
自身が販売の場に立ちます。「おいし  
かったよ」の一言が何よりもうれしい。

最も多かったのは、味や栄養バランスについてのお褒めの声、次いで、地域との連携に期待をお寄せいただきました。どちらも嬉しい評価です。  
「常磐大とのコラボメニューに興味があり、今後の食卓の参考になればと思つて」(20代女性)  
「学生さんに直接メニューを紹介してほしい」(40代女性)

女性)「県内の野菜を使っているのが良かった」(40代女性)  
「今後も続けてほしい」(40代男性)  
「学生たちの新鮮な感覚で新たな風を県庁食堂に送り込んでください！地元の定食屋とコラボなどの企画も期待しています」(30代男性)



初めは緊張したアンケート調査にも、次第に熱が入ります。



プロジェクトでは様々な有識者と意見交換。

**自分たちで集めた  
現場の声から見えてきたこと。**

国際学部 経営学科3年 正田 光紀(写真下・左)

国際学部 経営学科3年 木村 奈美(写真下・右)

「観客を1万人に増やす」という課題に、初めは解決のイメージが思い浮かびませんでした。しかし教室を出て、実際に試合会場に立つてみると、そうした不安は消えていました。とにかく手に汗握る試合で、私たちも観客の皆さんもいつも間にか一緒に「水戸ホーリーホック」を応援していました。

試合前と試合後のアンケート調査は、学生である私たちが行いました。調べる前は「無料」ということで来場された方がかりだと思っていたのですが、実際にお話を伺うとすでにシーズンチケットを購入している方々がいました。

最初は緊張したアンケート調査にも、次第に熱が入ります。

入していくらっしゃる方、ファンクラブ会員の方、「ぜひまた来たい」とおっしゃる方がたくさんあったのです。「水戸ホーリーホック」に好意を持っている人の多くは、勇気づけられる思いでした。そうであれば、こうした方々を中心にして、いかに集客力を高めていくか。教室で考えるだけでは見えない光が、見えてきたような気がします。

今後、もっと積極的にプロジェクトに参加して、常磐大学らしい企画を提案しが集まり、協議が重ねられています。常磐大学もメンバーに名を連ね、国際学

**自分は社会に求められている。  
その気づきが大きな成長につながる。**

国際学部 経営学科 准教授 文堂 弘之(写真上)

国際学部 経営学科 助教 村中 均(写真中)

ある課題に対して状況を調査・分析し、解決法を導き出すことは、大学における専門性の一つでもあります。今回、「水戸ホーリーホック」という地元の財産をどう活性化させるかという課題に対しアンケート調査を行い、課題解決を目指して集計・分析し、次のアクションへ向けての土台づくりを行ったことは、まさに常磐大学ならではの試みと言えるでしょう。そして、こうしたプロジェクトに学生を動員できたということに、私たちには高い教育的価値を見いだしています。

例えば今回のアンケート調査は学生が行いました。知らない人に声をかけ、話を引き出すことに不慣れや戸惑いを感じる学生もいたことでしょう。アンケートからは非常に有意義な発見とデータが得られ、そこではじめて作業の意味や、導いていきたいと考えています。

キャンパスを出て人と話をする大切さが分かります。課題解決に向けてさらに具体的に考えられるようになり、大学で学んだ理論を実践的に活用しようとする意欲が生まれるので。

こうした取り組みを、ゼミ単位だけでなく学科全体で、またはゼミ同士で切磋琢磨しながら広げていきたいと考えています。大切なのは、地域が抱える様々な課題を、教室ではなく現場で人と接して考え合うということ。そうすることによってもつと気づいて、もっと地域に飛び込んでいって欲しい。そのためのサポートをしっかりと続けながら、学生の成長を導いていきたいと考えています。



MITO.H.H

2010年2月、常磐大学は地元Jリーグチーム「水戸ホーリーホック」を運営する株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホックと、地域社会の活性化および双方の一層の発展を目指して、連携協定を締結しました。人材育成や資源の相互活用など、双方の特性を活かした事業を推進し、さらなる地域社会の発展に向け、様々な連携事業が計画されています。

また、水戸ホーリーホック・ホームタウン推進協議会のワーキンググループとして、水戸ホーリーホックを応援する「水戸ブルー夢をかたちにプロジェクト」が始まっています。ホームスタジアムへの動員を増加し、地域をさらに活性化させるために立ち上げられた今回のプロジェクト。「観客1万人」の動員を目指し、地元商工会議所や新規経済団体など多方面から有識者が集まり、協議が重ねられています。常磐大学もメンバーに名を連ね、国際学

部経営学科 文堂弘之准教授・村中均助教の2名が参加しています。地域の交流、経済波及効果、地域の知名度向上などを、あらゆる効果を検討しながら去る4月17日(土)のアビスパ福岡戦においてキックオフイベントを実施するに至りました。

主なイベント内容は、事前申込により観客全員を無料招待するというも

の。さらにNHKの番組ともタイアップ

し、水戸ホーリーホックの活躍と観客の熱気を全国に紹介。6千人を超える観客を動員し、まずまずの成功を収めました。イベント開催にあたり、国際学部経営学科の学生もプロジェクトに参加し、来場者へのアンケート調査を実施。その集計データをもとにした分析レポートはプロジェクトメンバーから高い評価を受け、以降の施策における常磐大学の活躍がさらに期待される結果となりました。

### 水戸ホーリーホックについて

#### 地域とともに勝利のゴールに向かって走る、水戸ホーリーホック



MITO.H.H

地元ゆかりの水戸藩に因み、「ホーリーホック」の意味は「菱」、エンブレムも水戸藩の家紋から引用されたものです。それだけに徹底した地元志向が特色。年130回以上も地域貢献イベントを開催するなど、茨城との絆を大切にしたチームです。昨年はJ1昇格圏に入り善戦しましたが、平均入場者数がリーグ最下位と低迷しており、今回のプロジェクトで最下位脱却を目指しています。



#### 常磐大学の皆様に期待しています。

常磐大学と水戸ホーリーホックは本年2月に連携協定を結ばせていただきました。両者は、地域に根ざして人材を育成するという部分で共通しています。今回、連携協定の締結により、双方の発展は勿論、地域に活力を与えたると考えています。4月に発足したプロジェクトには、常磐大学の文堂先生、村中先生にも加わっていただきましたので、専門的な意見をいただきながら、より良い街づくりや魅力あるスタジアムづくりを推進していきます。



**地元Jリーグチームを支援する  
プロジェクトに  
参加しています。**

水戸ホーリーホック支援事業

学びのTOPIC  
UNIVERSITY  
**大學**

# 学生のコミュニケーション力を養う新たな連携。

「人間関係力」をプロに学ぶ。

吉田正顕彰事業「企業のトップから学ぶ実践講座」開催。

## News

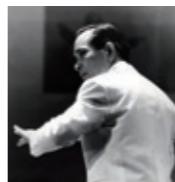


日立市と常磐大学・常磐短期大学の連携事業の一環として、2010年度から常磐大学・常磐短期大学特別講座が開講されました。元ビクターエンタテインメント株式会社の社長をはじめ、元レコード会社社長、オリコン・リサーチ社長など、音楽業界の第一線を担う方々を講師として招致し、トヅブリーダーとして長年培われたキャリアからコミュニケーションスキルを学ぶという実践的講座です。5月から7月まで5回にわたり講座の共通キーワードは「人間関係力」。現代においては、他者との関係を築く能力の低下が指摘され、様々な社会問題発生の要因とも言われています。また学生が社会へ参立する際に、人間関係の構築力はあらゆる職場に求められ

る資質として重視されています。人に心を伝える「コミュニケーション力」が求められる音楽業界で、どのように「人間関係力」が磨かれていたのか、自らの体験談も交えた講師の方々のお話は、それぞれの将来を目指す学生にとって非常に意義あるものとなりました。初日の講義は「NPO法人ミュー・ジックコミュニケーションズ21」濱谷敏旦理事長に担当していただきました。企業人に必要なネットワーク構築力や洞察力をどのように高めていけばよいかという講義の中、「例えトップアーティストでも人前で話すのは苦手」と語りかけるような講師の言葉に、学生からはどこかホッとする表情も。普段は会うことのできない方々の貴重な話に、参加者全員が熱心に聞き入っていました。



### 音楽と深い縁を持つ日立市



作曲家吉田正氏を輩出した、昭和歌謡ゆかりの街。

日立市は、昭和歌謡の黄金期を築いた作曲家吉田正氏が生まれ育った街です。1998年、日立市は氏を名誉市民として称え、音楽にちなんだ顕彰事業を展開。この度の常磐大学との連携も、その事業の一環として行われています。



吉田正氏の生涯作曲数は約2400曲。その曲調は「吉田メロディ」と呼ばれ、戦後の荒廃した人々の心を和ませ、生きる喜びや希望を与えるものでした。日立市が2004年に竣工した「吉田正音楽記念館」。数々のヒット曲が聴き、ミニコンサートをはじめとする様々なイベントも開催されています。



吉田正氏の足跡を伝える「生命のある限り—吉田正・私の履歴書—」。吉田正氏と関係の深かった、音楽評論家、作曲家、作詞家が執筆しています。日立市と常磐大学の連携においては、講演にとどまらず、地域活性化へ向けた様々な事業と教育的機会の広がりが期待されています。

(資料提供:日立市吉田正記念事業推進室)

## Essay



「企業の求めている人材とは」「目に見えるモノではなく、ここに『人間関係力を優先する人へ』」

元ビクターエンタテインメント株式会社 代表取締役社長  
NPO法人ミュージックコミュニケーションズ21 理事長 濵谷 敏旦様

仕事をする上で大切なことは、人間関係力コミュニケーション力です。仕事の悩みの一番は人間関係に端を発するもので、避けて通れない問題です。日常的にも「うまく人と話せない」「話が続かない」「意見が言えない」などと悩んでいる人が大勢いますが、仕事をするにあたっては、苦手のままではいられないのと、トレーニングをしてコミュニケーション力をあげる必要があります。

人間関係をよくするために、学生のうちにやっておくこととしては、以下の4点があります。①自分自身を深く知る。②積極的に人に会っていく。③テーマを設け、みんなで企画を立て、企画書を作成する。④人の話や体験談を自分に置き

換えて聞く。これらを通して、コミュニケーション力を養っていくのです。

企業が求める人材とは、「自分なりのノウハウを創りだせる」「自己管理ができる」「柔軟性があり多面的である」「心がない」「意見が言えない」などと悩んでいる人が大勢いますが、仕事をするにあたっては、苦手のままではいられないのと、トレーニングをしてコミュニケーション力をあげる必要があります。

人間関係をよくするために、学生のうちにやっておくこととしては、以下の4点があります。①自分自身を深く知る。②積極的に人に会っていく。③テーマを設け、みんなで企画を立て、企画書を作成する。④人の話や体験談を自分に置き

## Report

### Report



「与えられるのではなく、自分から行動し、働きかけることで変わっています。」



人間関係は誰でも苦手。学生のうちにトレーニングすることできることで力はついていきます。

人間科学部

コミュニケーション学科3年 真家 望

就職活動を間近に控えているので、就職に有利な役立つ情報が得られるのではないかと思い、特別講座を受講しました。私は初対面の人に対して何を話していくか分からなくなることがあります。しかし、コミュニケーション力は伸ばせると講座を通して学び、学生のうちに、しっかりとその力を育んでいくべきだと感じました。

講座中に実施した「企業が求める人材とは」のセルフチェックシートを通して、「相手の立場に立てる」「人間好きでキャラパシティが広い」という自分の強みが見えたので、今後はそれらの力を伸ばして自分の売りにしたいです。

人と人がコミュニケーションをする時は、誰しも緊張するし、それも必要なことだと聞き、安心しました。私は幼い頃から人見知りだったので、それを克服するために、今は接客のアルバイトをしています。たくさんの人とコミュニケーションをする中で、少しづつ改善でききました。これからは、人と会うことが苦手や嫌いなどと思つて自分を閉じてしまうのではなく、踏み込んで自分と合わない、自分とタイプの違う人ともコミュニケーションを取つていこうと思います。

音楽業界を目指している私にとって、今回の特別講座は貴重な機会です。企業の方からたくさんのこと学んでいきたいです。

「元ビクターエンタテインメント株式会社 代表取締役社長  
NPO法人ミュージックコミュニケーションズ21 理事長 濱谷 敏旦様



「与えられるのではなく、自分から行動し、働きかけることで変わっています。」



人間関係は誰でも苦手。学生のうちにトレーニングすることできることで力はついていきます。

人間科学部

コミュニケーション学科3年 真家 望

就職活動を間近に控えているので、就職に有利な役立つ情報が得られるのではないかと思い、特別講座を受講しました。私は初対面の人に対して何を話していくか分からなくなることがあります。しかし、コミュニケーション力は伸ばせると講座を通して学び、学生のうちに、しっかりとその力を育んでいくべきだと感じました。

講座中に実施した「企業が求める人材とは」のセルフチェックシートを通して、「相手の立場に立てる」「人間好きでキャラパシティが広い」という自分の強みが見えたので、今後はそれらの力を伸ばして自分の売りにしたいです。

人と人がコミュニケーションをする時は、誰しも緊張するし、それも必要なことだと聞き、安心しました。私は幼い頃から人見知りだったので、それを克服するために、今は接客のアルバイトをしています。たくさんの人とコミュニケーションをする中で、少しづつ改善できました。これからは、人と会うことが苦手や嫌いなどと思つて自分を閉じてしまふのではなく、踏み込んで自分と合わない、自分とタイプの違う人ともコミュニケーションを取つていこうと思います。

音楽業界を目指している私にとって、今回の特別講座は貴重な機会です。企業の方からたくさんのこと学んでいきたいです。

# 仲間と全国大会を目指したい！ 生徒の熱い思いが結実した 囲碁同好会。

常磐大学高等学校囲碁同好会レポート



## News

2010年4月に設立されたばかりの常磐大学高等学校囲碁同好会はわずか部員3名という小さな団体です。しかし部員の中には、茨城県高等学校秋季囲碁大会個人戦優勝、全国高校囲碁選手権大会茨城県大会個人戦優勝を果たした強豪もいます。また、茨城県大会の団体戦では、準優勝という結果を残しました。今後の活躍が期待されるサークルです。囲碁同好会は設立の経緯もユニークで、3名の生徒がそれ時期を同じくして学校に働きかけ、その熱意で教員を動かし、誕生したサークルです。

囲碁というゲームは文字通り敵の碁石を囲んで取り除き、自分の碁石の領域を広げていくルール。計画や作戦を練る際に用いられる「布石」や「定石」といった言葉が囲碁に基づいているよう、洞察、推理、予測、判断などのあ

らゆる思考力を総動員しての頭脳戦を要求されるゲームです。近年では東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学などでも講義に取り入れられ、戦略的思考の向上にも利用されています。「どんなに小さな夢でも、全力で応援することができる私たちの役目」と、囲碁同好会顧問の吉田崇先生は語ります。自ら伸びようとすると生徒の思いを大切にする生徒について、生徒は「いろいろなことを話せる存在」と厚い信頼を寄せています。「次の目標は団体戦優勝！」そのため吉田先生は今後の練習強化を計画中。インターネット対局も検討しているとのこと。先生、生徒一丸となって夢に向かう囲碁同好会は、黙々と碁を打つ会ではありません。皆で一緒に次の一手を考え、一瞬も議論が絶えない、熱気と闊達な空気に包まれた同好会です。



「その手は違うのでは？」  
「いい先生、これでいいん  
です、なぜなら…」互いに  
教えあう空気が自然と  
つくられています。

## 囲碁同好会の活動に密着！



自由闊達に議論が飛び交う、  
にぎやかな対局。



囲碁の教科本。まずテキストをいくつも読み、対局の大まかな手法を学びます。



いつも3人でにぎやかに  
対局しながら、お互いの  
技術を高めています。



「その手は違うのでは？」  
「いい先生、これでいいん  
です、なぜなら…」互いに  
教えあう空気が自然と  
つくられています。

## 勝った時の喜びを仲間たちと 分かち合いたい。

2年 佐々木 萌子

## Report



教科本を読み合うと、思わず熱の入った議論になります。

## Essay



## 自主性を重んじる教育が、 才能を開花させる。

顧問 吉田 崇



生徒に教えを乞うこと。  
「対局では誰もが平等です」

私が初めて囲碁と出会ったのは、小学校4年生のときです。テレビであるアニメ番組を見たことがきっかけでした。そこに登場するキャラクターたちは、皆とても一生懸命でした。それを見た私も、何かに打ち込んでみたいと思い、囲碁の世界に飛び込みました。

囲碁というゲームは、「陣取り合戦」とも言える要素を持つていると思います。どちらが碁盤上の限られたスペースを多く取るかを競います。例えば将棋やチエスのように、囲碁も決められたルールの中で勝負します。しかし、囲碁は制約が少ない点が特徴的であると言えると思います。19×19の線の交点であれば、ほとんどどこに打っても構いません。先の番組の主人公の台詞を借りれば、

「自分の一手で宇宙を創造する」ことができるのです。こんな自由なものはないと思います。私はそのように

囲碁の大きな魅力の一つだと思います。

同好会の今後の目標は、メンバー同士が互いに教え合い、また競い合って、互いの力を伸ばしていくことです。そして各種大会で勝ち抜いていきたいと思っています。

囲碁という競技は一人で打ち続ける個人競技ではありますが、勝った時の喜びを仲間と分かち合えれば、その喜びは何倍にも増え、負けたときの悔しさは自分が少しも小さくなります。私はこれからも同好会のメンバーとこのような時間と共に過ごしたいと思っています。

ことは個人出場のそれとはまた違う喜びであり、仲間の存在はとても大きく多くのことを学ぶことができる」という思いからでした。

今回同好会の設立を学校から認めていたい大きな理由は、生徒のこのよくなれた熱い思いを汲み取っていただけではありません。常磐大学高等学校に入学してからいくつかの大会に個人出場し、県大会では優勝、関東大会では4位に入賞し、この夏に宮崎県で行われる総合文化祭囲碁部門へ茨城県代表として出場するまでになりました。

そのような彼女が同好会設立の希望を出してきたのは、「囲碁は個人競技だけれども、仲間と共に学校の代表として大会に出場し、勝利の喜びを分かち合う

感謝申し上げます。

ことは個人出場のそれとはまた違う喜びであり、仲間の存在はとても大きく多くのことを学ぶことができる」という思いからでした。

今回同好会の設立を学校から認めていたい大きな理由は、生徒のこのよくなれた熱い思いを汲み取っていただけではありません。常磐大学高等学校には、素晴らしい才能や可能性を持つた生徒があり、それがそのまま実力を使っています。それは、常磐大学高等学校が生徒の可能性を広げ、パックアップしてくれる場所であるから、と改めて感じました。同好会設立にあたり、ご協力いただいた方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。

## 智学館

# 世界にはばたく英語力。

智学館英語教育カリキュラム



## News

開校3年目を迎えた智学館では、日本をリードする先進的な英語教育が展開されています。智学館の英語教育カリキュラムは、田中茂範慶應義塾大学教授監修のもと、大きく三つのステージに分かれています。1・2年次は「Explore the World」というステージで、文法や語彙の基礎学習を徹底的に行います。3・4年次は「Read and React」と呼ばれ、本格的な英文を読み込みさらなる理解力・表現力を身につけます。単に英文の意味を捉えるだけではなく、要約やスピーチを行うなど、Reactすることに重点を置いている点が特徴です。5・6年次は、リサーチ・ディスカッション・プレゼンテーションのプロジェクト型学習を行い、実践的に英語を使う段階へ進みます。また、大学受験にも対応し得る総合的な英語力を育成します。

教員（NET）が常駐していることも智学館英語の大きな特徴です。授業は日本語とする専任のネイティブへ進みます。また、大学受験にも対応し得る総合的な英語力を育成します。

毎年開催しているEnglish Festivalでは、洋楽の歌詞の暗唱や、自分の興味・関心のあるテーマについてスピーチを行い、プレゼンテーション能力や、気持ちは英語を話すこと学びます。大学など外部から審査員が来校し、予選・決勝戦の二部構成で本格的な発表会が行われます。生徒たちはみな、とても中学生とは思えないほど完璧な表現を行ってきました。

智学館では、将来様々な分野で活躍するための英語力を身につける理想的な環境を整備しています。英語を使って世界に羽ばたけるよう、今後の生徒たちのさらなる成長を期待しています。



## 智学館英語で叶えたい将来の夢。

3年次 日野 あかり

私が智学館で英語を勉強したいと思ったきっかけは、入学前に参加した体験授業の時でした。それまでも英語を勉強していたのですが、簡単な会話表現やアルファベットの練習程度でしたので、智学館に入学すればもっと本格的に英語を勉強できるんだと胸を高鳴らせたことを今でも覚えています。

入学して間もない時は、単語を覚えたり、新しい文法項目を理解するのにとっても苦労しましたが、今では自分なりの学習スタイルを確立することができます。智学館で英語を始めて3年目に入りましたが、今でも英語は5教科の中で一番好きな科目です。

授業は日本人の先生とネイティブの先生とのチームティーチングで行われているので、毎回とても活気があり、気がつくとあつという間に授業時間が

終わっています。また、生徒一人ひとりに対してきめ細かく教えていただけるのでとても助かっています。授業では日常会話で役に立つ表現を覚えて練習したり、文法を勉強することが好きです。特にパワーポイントを使った文法の説明は、重要な部分がコンパクトにまとまっていて、とても分かりやすいです。これから目標としては、日常会話や單語、読解力を今以上に伸ばそうと思っています。

まだ漠然とした夢ではありますが、将来は海外で英語を使ってできる仕事に就きたいと思っています。夢の実現に向けて、これからより一層、英語のレベルアップを図りたいと思っています。卒業までの残り4年間で、自分の英語の力がどのくらい伸びているかが今から楽しみです。

## 理論と実践のバランス感覚が英語教育の要。

英語科マネージャー 森本俊

これまでの英語教育では、「中学・高校での6年間英語を勉強したのに、英語が使えるようにならなかつた」ということが盛んに言われてきました。これは、生徒たちが英語の「使い手」(user)としてではなく、「学習者」(learner)として捉えてきたことが一因であると考えられます。この問題を克服するために、日々の授業をいかに充実したものに「デザインし、生徒一人ひとりにとつて「分かり」」使える」英語を提供できるかが大きな課題となります。このような問題意識を踏まえ、智学館では6年間の「貫カリキュラム」の策定や、智学館英語教育メソッドの共有、「表現英文法」という観点から編纂された教材の開発など、多くの先進的な試みを行ってきました。

英語教育は、もちろん理論的な側面も重要ですが、最終的には教員と生徒たちが共に創っていくものであり、現場における実践とのバランス感覚が常に求められます。大きな充実感を得られる授業、時には反省点が残る授業など、二つとして同じ授業はありませんが、私にとってはその一つひとつがかけがえのない学びの場です。生徒たちが授業で学んだ表現を積極的に使ってしたり、目を輝かせながら授業に取り組んでいる姿を見ることが、私にとっての何よりのエネルギー源となっています。

今年度は、新たに日本人・ネイティブ教員が加わり、英語科は総勢7名となりました。今後も教員チーム一丸となり、生徒たちが自分自身の英語(my English)を育むことができるよう、授業力の向上や教材開発に励みたいと思います。「智学館で英語を学ぶ」ことができ本当に良かった」と生徒一人ひとりが思えるような英語教育を、「これからも実践していく」と考えています。

### 3年次ではこのように学びます

## 3年次英語授業のラインナップ

3年次の英語の授業は週6日(毎日)です。文法や読解、日常会話などバラエティに富んだテーマで使える英語を徹底的に身につけます。授業はNETとのチームティーチングで行われ、常に生きた英語に触れることができます。



CALL教室ではオンライン英語学習サイトcocone®を使った日常会話表現の練習を行います。マルチメディアを駆使した学習が生徒に好評です。



文法の授業では、規則の暗記ではなく、それを使ってどのように表現できるかを意識した内容になっています。



読解の授業は、チャシング・リーディングという手法を使って行われます。単なる英文と訳し留まらず、題材を自分のものとするための様々な演習を行います。



授業はNETとのチームティーチングで行われるので、一人ひとりに対してきめ細やかな指導が可能となります。

## Report



## Essay



# 母親といつしょに広げる世界。のびのび遊んで、やつくり育てよう。

「まつの子ぐみ（2歳児のための親子プログラム）」実施中。

## News



常磐大学幼稚園では2000年度から、幼稚園入園前の2歳児を対象にした親子プログラム「まつの子ぐみ」を短期大学の授業（「課題研究」として実施してきました。今年度からは、幼稚園の事業として、利用者の要望を取り入れながら内容をより充実・拡大して、子ども自身と親子のコミュニケーションを段階的に育むための支援を行っています。

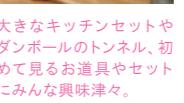
子どもの成長をゆづくり「待つ」、幼稚園へ上がるのを「待つ」、そして本学ゆかりの「常磐松」、この3つの思いをつなげた「まつの子ぐみ」。母親と一緒に遊びながら、同じ年の子どもたちと触れ合うことによって、少しづつ集団生活に慣れ、入園前に社会性の基礎を



### 「まつの子ぐみ」の1日



#### 様々な遊具とのびのびと遊べる空間で、元気いっぱい！



#### 大きなキッチンセットやダンボールのトンネル、初めて見るお道具やセットにみんな興味津々。



#### 机を集めて小麦粉粘土遊び。グニョグニ不思議な感触を楽しんで、子どもたちの目が輝きます。



#### 大豆インクを使って、ママといっしょに手形をベタリ。赤、青、黄色の小さな手がいっぱいです。

#### 休憩のおやつを食べた後は、歌やお遊戯、そして紙芝居。静かな子も活発な子ものびしています。

## Interview



遊びを通して親子のスキンシップが深まります。



様々な遊具を興味の赴くままに楽しめます。



ママが見守っている安心感ののびのび遊ぶ真寛君。

### 2歳児に生活のリズムが生まれた。 自主性を育むいい機会。

澤田 友揮様・真寛君

常磐大学幼稚園に長男が登園していましたときから、「まつの子ぐみ」の活動は知っていました。子どもの自主性を尊重してくださる先生の方針に共感し、次男と参加することにしました。子どもにとても私にとって、非常にいい刺激をいたいでいます。粘土や絵の具などを使った遊びはどうしても汚れてしまふので家庭では敬遠しがちなのですが、ここで体験させていただけるのであります。同じ2歳児と長い時間いっしょに遊んでおもちゃや貸し合ったりすることも、なかなかない機会だと思います。

ます。私にとっては、つい忘れかけていた2歳児の遊び方や育て方を思い出させてくれる場でもあります。

先日の「まつの子ぐみ」の帰りには、その日に習った歌を口ずさめるようになっていました。そうした小さな変化を日々見守るのも楽しみです。そして何より、3日おきの開催なので、子どもに生活リズムや目的ができるつあることがすばらしいと感じました。「明日はお友だちと先生に会える、そのためには明日の準備をして…」といった自主性がそこから少しずつ育まれることを願っています。

## Essay



絵本を用いた紙芝居教室。



親子で楽しめる様々な遊びを紹介。

### 「育児を孤立させない」コミュニケーション づくりを心がけていきたい。

まつの子ぐみ担当教員 海老澤 弘子

ある日こんなことがあります。ある男の子が女の子のもとに寄ってきて、おもちゃを取り上げました。どうすべきか一瞬迷いつつも、少しの間見守っていると、その男の子は同じ別のおもちゃを探してきて女の子に手渡したのです。子どもには本来、こうした社会性や自主性が備わっています。そして2歳児には2歳児の伸びやかな発達段階があります。型にはまつた受験対策や早期教育を施すのではなく、個々ののびのひとした成長を見守り、親子のつながりをより深めていただこうというのが「まつの子ぐみ」のねらいです。

例えば、一人の子どもが歌やお遊戯に興味を示さなくとも、私たちが強制はせず、その子の自主性に任せるように心がけています。その場にいてみんなのお遊びを眺めることが大切。今日でなくても

いつか興味を示して参加してくれることを待つことが大切だと考えています。もう一つのねらいは、「育児を孤立させない」ということです。子どもとどう接し、どう育てたらよいのかといった悩みも、昔の地域社会のようにお手本を示してくれる人がなかなかいない時代です。そうした中で他の多くのお母さん方や幼稚園の教員、大学や短大の先生方がいる環境にお子さんと一緒に通うといふことは大きな意味があると考えています。同世代の子を持つ親同士で悩みを打ち明け合い、専門的な相談に乗れる教員がいる。園では「まつの子ぐみ」と並行して、短大と連携した様々な育児の試みが行われています。今は親子というつながりが中心ですが、今後は常磐大学幼稚園ならではの育児コミュニティをさらに広げていきたいと思っています。

# 「tokiwa」に関する ご意見・ご感想をお寄せください。

リニューアルに伴い、本誌をお読みくださっている皆様から、幅広くご意見・ご感想をいただき誌面づくりに反映させていこうというアンケート企画が今号よりスタートいたします。どうぞ気軽に、ひとことお寄せください。ご協力をよろしくお願ひいたします。

- ▶ 本号「tokiwa vol.15」をお読みになっての感想
  - ▶ 次号以降の広報誌で取り上げて欲しいこと
  - ▶ 常磐にこれから期待したいこと、実現して欲しいこ



**ご送付方法:** 付属のはがきにご記入いただき、ご送付ください。  
(送料はかかりません。)

# Greeting

# VoiceS

## 今回取材した方々からのひとこと

ごあいさつ

新しく生まれ変わった法人広報誌「tokiwa」  
はいかがだったでしょうか。開学101年目を  
迎え、学校法人常磐大学は、変わり行く社  
会に伴い、革新され続ける教育の理想を追  
求しようとMission&Visionを掲げました。  
本誌も常に価値と意義ある情報を皆様のも  
とへお届けできるよう、常に進化すべく尽力  
したいと考えております。関係者の皆様に、  
今後一層ご活用いただけましたら幸いです。

学校法人常磐大学 広報課

地域と本学との交流は、今後一層多くの場を通して行っていきたいと考えています。それはこの広報誌においても同様です。お届けした情報に対し皆様のご意見やご要望をいただき、発展的に活かしていく。広報誌から地域の方々との絆、コミュニティ創出の機会が広がることを期待しています。

常磐大学 副学長 森山哲美

常磐大学には、地域の方々と交わって学ぶプログラムが多いことに魅力を感じています。今回取材を受けた県府食堂のメニュー開発以外にも、地元農家の方とともに蕎麦の栽培を行うプロジェクトにも参加しています。地元の方々から教わる知恵や技術を、今後の研究や将来に活かしたいと思います。

常磐大学人間科学部  
健康栄養学科2年 根本哲紀

常磐大学幼稚園には豊かな自然があります。広い園庭では子どもたちと実習生の方々が触れ合い、短大や大学の先生方もよく来園されます。多様な方々、植物や動物と日々触れ合える環境が、子どもの自主性が育つ理由の一つであるように感じています。

澤田友揮 様

常磐大コースでは、「大学特別講座」という授業があり、大学でいろいろな学科の先生方の講義を受けることができます。「保育士の仕事について」など高校ではなかなか学べない内容ばかりですので、このチャンスを活かして自分の視野を広げていきたいと思います。

常磐大学高等学校3年 杉浦知美



## 教員パーソナルエッセイ

# もうひとつの探求

教員一人ひとりが、専門の研究分野に向ける飽くなき探究心。その知的好奇心の泉は、教育・研究活動以外の場にも溢れていますそこには、思わず情熱を注がざるにはいられない、学術研究にも劣らぬ奥深い世界が広がっているようです。研究室を出た教員の、素顔の時間を覗いてみました。

常磐大学 コミュニティ振興学部 専任講師 吉川 勲



リースの協会を訪れた時に分けていただいた樽出し。本来は会員だけが得られるという貴重な一本。銀の杯は、スコットランドの伝統儀式にて飲み分ける大杯のミニチュア版。

天使も味わうスコットランドの「ウイスキー」は、ゲール語の「ウイスケ・ベーハ」(あやしい表記ですが)が短くなつたもので、「命の水」のことです。スコットランドが誇る文化であり、人は蒸溜所とその周囲の自然を楽しみ、ウイスキーにまつわる文章を楽しみ、語って楽しみ、液体を飲んで楽しめます。つまり、スコッチを味わうとは、スコットランドを味わうことです。で、最後には酔っぱらうのです。

20数年前の初夏のこと、私はエジンバラのリース地区にある煤けた煉瓦造りの建物の前でタクシーを降りました。The Scotch Malt Whisky Society に足を踏み入れる瞬間です(まだ海外支部がない頃です)。この協会が言ふように、市販のウイスキーは製造の過程でチル・フィルターを通すので成分の一部が失われてしまうとのことです。このフィルターをかけないとウイスキーが冷えた時に滓のような濁りが出るのです。ここでは、フィルターを通して純粹に樽出しで瓶詰めしたシングル・モルト・ウイスキーに樽番号を付し、会員制度を颁布しています。

スコットランドでは、大麦を発酵させた液体を蒸溜しても3年経たないでウイスキーとは呼

べません。それから売り物になるとまでさらに数年、場合によつては十数年間保証倉庫で寝かせます。熟成には税金がかかるのです。蒸留された液体は木の樽で熟成しながら、歳月と共にいくらか量を失います。これが、天使の分け前です。1年で3%ほど減るようですが、誰も蒸発したとは言いません。天使が飲んだことにしています。なにせ、消費者から、天使にでも差し上げたことにしないと、やりきれないので。

ですから、できあがった作品は最高の状態で味わうべきなのです。時間と手間と金と情熱がかかるつていますから、飲むときはぐらいは何も失うことなく味わいたいのです。協会の意図もここにあります。当時はこの協会にたどり着いて作品を味わうまでにずいぶん苦労しました。試飲では少々加水します。眠れる「命の水」を目覚めさせるのです。いよいよ瞬間、鼻腔を大麦と微かなピートの香りがくすぐり、味蕾を軽くアルコールが刺し、喉から胃にかけて命の暖かさが広がります。ワインスキーをいただく至福の瞬間です。